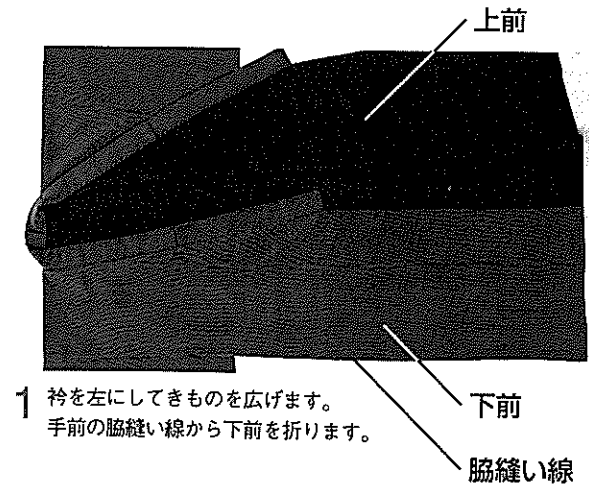
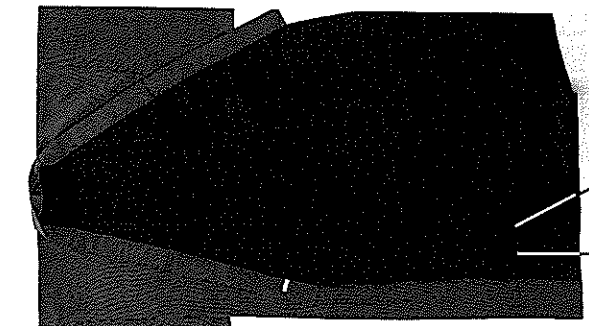


# きもの

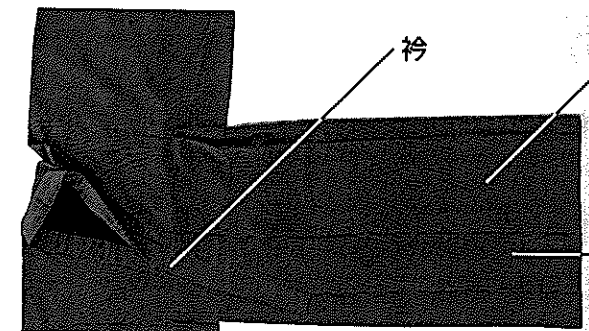
もっとも一般的なきものたたみ方で、本たたみといえます。この方法でたたむと、市販の畳紙や箆笥の引き出しにもぴったりとおさまります。



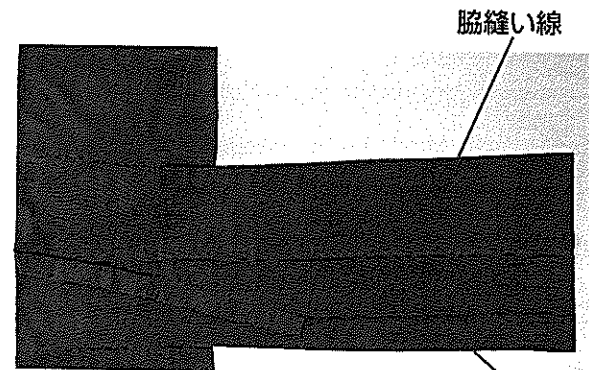
1 衿を左にしてきものを広げます。手前の脇縫い線から下前を折ります。



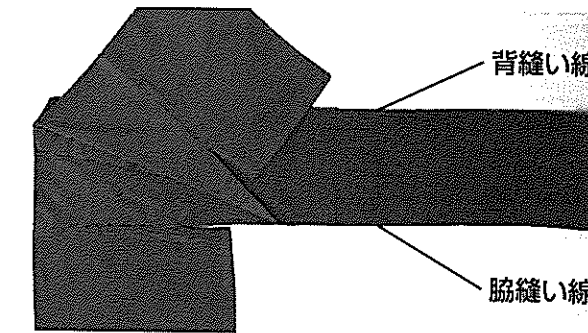
2 衿線に沿って、下前の衿を手前に折ります。



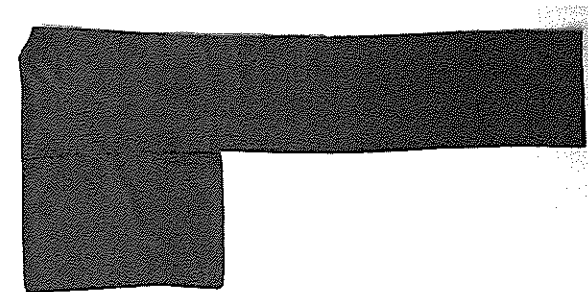
3 下前に上前を重ね、衿と衿を合わせます。衿を内側に折ります。



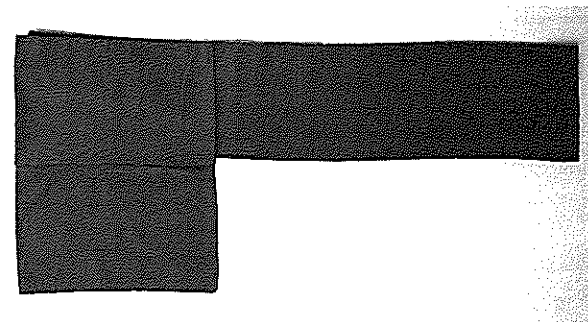
4 衿を全部折り重ねます。



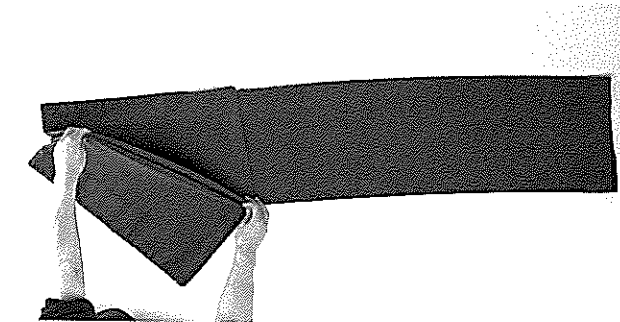
5 上前の脇縫い線を持って、下前の脇縫い線に合わせます。



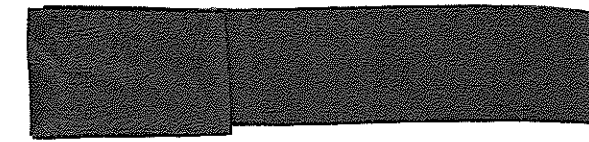
6 袖と衿もきちんと重ねます。ちょうどきものを縦半分にしたような形になります。



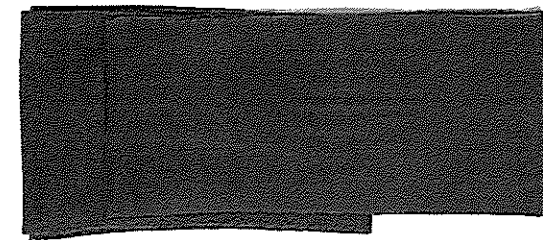
7 上前の袖を外側に折り返します。



8 下前の袖を下に折り返しますが、そのとき上前と下前の袖口をきちんと合わせて行います。



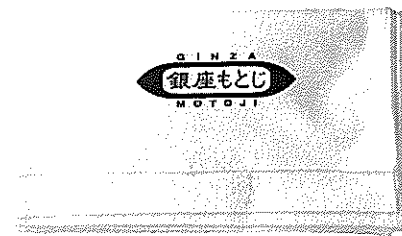
9 下前の袖を下に折り返したところです。



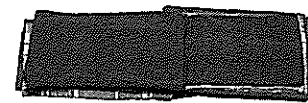
10 収納スペースに合わせて、きもの裾を折りたたみます。

## 和服のしまい方

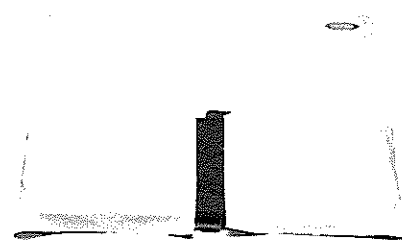
かつて、和服は畳紙に包んで箆笥にしまっておくものとされてきました。近頃では、あまり虫干しをしないために、この紙がしみやかび、色褪せなどの原因となってしまうことがあります。紙に含まれている糊分や硫黄成分が湿気を含むと、ガスとなって箆笥の中に充満し、汚れやカビの原因を作ってしまうのです。畳紙を使う場合は、必ず年に二回は虫干しをして、きものに風を通してください。長期着ないきものは、畳紙に入れず、箆笥の upper 段にそのまましまっておくのがよいでしょう。



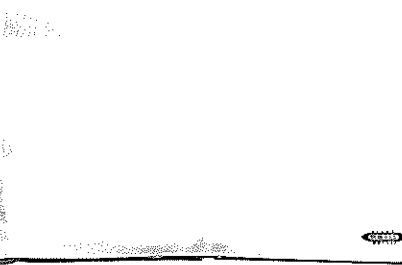
畳紙の代わりに使いたい、白衣装包み。漆金で染めた黄色のものが市販されていますが、色落ちが心配な人のために開発されたオリジナルです。



1



2



3